

秩父銘仙まとい、卒業式を

秩父市立南小学校（同市野坂町）で来年3月に開かれる卒業式に、卒業生28人が伝統的な絹織物・秩父銘仙の着物姿で臨むことになった。ちちぶ銘仙館（同市熊木町）が着物を貸し出す。

都市部から移住してまちづくりに取り組む地域おこし協力隊の隊員が、子どもたちが地元の銘仙を知る機会にと提案。銘仙館に近い同校の保護者から「卒業式で子どもたちに着せたい」と賛同を得

南
銘
仙
館
が
貸
し
出
し
へ

た。銘仙館が所蔵する着物は大人用だが、小柄な人が多かった大正から昭和初期のものが多いため、現代っ子の小学6年生の体格に合うという。

はかまや帯、腰ひもといった着付け用品が不足しているため、市商工課が寄贈を呼びかけている。式当日の着付けを手伝うボランティアも募集する。申し込みは来年1月31日まで。問い合わせは市商工課(0494・25・5208)へ。

着物を洋服に

着物を洋服にリメイクして今風のおしゃれを楽しんでいる人々を時々見かけます。ゆったりと着心地のよさそうなチュニックや薄手のコート。パンツとの違

和感もなくなってきました。同年代の友人も業者に依頼して着物をリメイクしています。個性的なネックレスが似合う友人の黒のワンピースは、お母さんの着物を再利用したものでした。

着なくなった着物や、母から

受け継いだ大切な着物など、たんに眠っている方が多いのでは？ シンプルなデザインならリメイクの費用もそう高くないようです。洋裁が得意なら自分でもできます。たんすの着物の活用法を考えてみてはどうでしょうか。

(和)

リメイクでおしゃれ楽しむ

おぼえ
がき
長月

う。
ひもやリボンを留めるとしおりに活用できます。手紙や名刺入れに忍ばせてもいいでしょう。香りの持ちは数週間からひと月程度。癒やし効果もあります。みなさんも香りを楽しんでみてください。(美)

着物リメイクデザイナー、山田百恵さんは、着物の生地で作っている。依頼は増えているという(東京・日本橋三越本店で)

